

使用教科書：（ 2東書 科人701 科学と人間生活（東京書籍） ）

副教材：（ NHK出版 科学と人間生活 学習書 ）

教科 理科

の指導目標：

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けようとする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 科学と人間生活

の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
自然の人間生活との関わりについての理解を深め、主体的に科学的に探究しようとする高度な知識、技能を身に付けている。	自ら工夫しながら、自然の人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身につけることができる。	自ら目的をもって、「科学と人間生活」の目標に向かって、興味を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
選択必修履修科目	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限				スクーリング				備考	
					1	2	3	4	1	2	3	4		
前期	①② 1編 生命の科学 1章 微生物とその利用	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	生態系での物質循環における微生物のはたらき、発酵食品や医薬品への微生物の利用について、人間生活と関連付けて理解する。	第1回	5月28日	5月2日	5月9日	5月16日						
	③④ 1編 生命の科学 2章 ヒトの生命現象	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	ヒトの生命現象を理解する。眼の構造、体内時計、炭水化物の消化と吸収や吸収されたグルコースの体内における流れ等を理解する。	第2回	6月25日	5月23日	5月30日	6月6日						
	⑤⑥⑦⑧ 2編 物質の構成 2章 化学結合	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	金属の種類による物理的な性質や化学的な性質の違いについて理解する。スチール缶やアルミニウム缶の再生利用の利点について、資料などを基に科学的に考察して見だし、表現する。	第3回	7月3日	6月13日	6月20日	6月27日	7月4日	7月11日	7月18日			
定期考査		前期試験 9月の土曜 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表												
後期	⑨⑩⑬⑭ 3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	物質の境界面での光の進み方に関して、反射や屈折、全反射について理解する。生活経験を基に、水底が浅く見える現象などに着目し、物質の境界面での光の進み方に問題を見だし、表現する。	第4回	10月9日	10月3日	10月10日	10月17日	11月4日	11月11日	11月18日			
	⑪⑫ 4編 宇宙や地球の科学 1章 太陽と地球	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	日、月、年という時間単位の定義や意味について、月や地球の運動と関連付けながら理解する。太陽活動や太陽の放射エネルギー、温室効果による地球温暖化について、人間生活と関連付けながら理解する。	第5回	11月6日	10月24日	10月31日	11月7日						
	⑮⑯ 4編 宇宙や地球の科学 2章 自然景観と自然災害	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	プレート運動により海嶺や海溝、山脈ができ、地表の景観は変化し続けていることを理解する。自然災害に対する防災・減災のための取り組みにさまざまな科学技術が利用されていることを理解する。	第6回	12月4日	12月5日	12月12日	12月19日						
定期考査		後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表												

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が合格ライン以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

#### 観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察。実験などを行い、得られた結果を分析して解釈する。	自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を養おうとしている。また、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
<p>定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。</p> <p>評定2以上で単位修得が認定される。</p> <p>学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。</p>

使用教科書：（東京書籍 物基702 「新編物理基礎」）

副教材：（日本放送出版協会 「新編物理基礎 学習書」）

教科 理科 の指導目標：

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けようとする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎 の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
物体の運動、物理現象、エネルギーの利用についての理解を深め、主体的に科学的に探究しようとする高度な知識、技能を身に付けている。	自ら工夫しながら、物体の運動、物理現象、エネルギーの利用についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身につけることができる。	自ら目的をもって、「物理基礎」の目標に向かって、興味を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
選択必修履修科目	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限				スクーリング	備考
					1	2	3	4		
前期	①②物体の運動とエネルギー 直線運動の世界（等速直線運動・等加速度直線運動）	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等□	・運動の表し方、変位と速度、等速直線運動、合成速度と相対速度、速度が変わる運動、自由落下運動、鉛直投射、水平投射	第1回	5月28日	5月2日	5月16日			
	③④⑤⑥物体の運動とエネルギー 力と運動の法則	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・力とつり合い、力の合成と分解、垂直抗力と弾性力、慣性の法則、「運動の変化」と「力」、作用・反作用の法則、動摩擦力とその性質、静止摩擦力とその性質、空気の抵抗力、水圧と浮力	第2回	6月25日	5月30日	6月6日	6月20日		
	⑦⑧物体の運動とエネルギー 力学的エネルギー・エネルギーとその利用	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・仕事、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの保存、いろいろな運動でみる力学的エネルギー ・エネルギーの変換と保存、原子核のエネルギー、放射線の利用と安全性、エネルギーの利用と課題	第3回	7月3日	7月1日	7月18日			
	定期考査	前期試験 9月の土曜 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表								
後期	⑨⑩さまざまな物理現象とエネルギー 熱（熱とエネルギー）	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・温度と熱、熱と物質、熱の移動と保存、熱と仕事、熱機関と不可逆変化	第4回	10月29日	10月3日				
	⑪⑫⑬⑭さまざまな物理現象とエネルギー 波（波の性質、音波とその現象）	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・いろいろな波、波の表し方、横波と縦波、波の重ね合わせ、定在波、波の反射、音波、弦の固有振動、気柱の固有振動	第5回	11月26日	10月31日	11月7日	11月28日		
	⑮⑯さまざまな物理現象とエネルギー 電気（オームの法則、電気と磁気）	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・動いていない電気、動いている電気、電流と電気抵抗、直列接続と並列接続、電力と電気量、電流がつくる磁場、発電機のしくみ、直流と交流、電磁波	第6回	12月4日	12月12日				
	定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表								

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が合格ライン以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

#### 観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察。実験などを行い、得られた結果を分析して解釈する。	自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を養おうとしている。また、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

使用教科書：（ 2東書 化基702 化学基礎（東京書籍） ）

副教材：（ NHK出版 化学基礎 学習書 ）

教科 理科 の指導目標：

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けようとする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎 の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
化学と人間生活との関わりについての理解を深め、主体的に科学的に探究しようとする高度な知識、技能を身に付けている。	自ら工夫しながら、化学と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身につけることができる。	自ら目的をもって、「化学基礎」の目標に向かって、興味を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
選択必修履修科目	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限				スクーリング	備考
					提出	提出	提出	提出		
前期	①② 1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	物質の分離・精製，単体と化合物，熱運動と物質の三態について理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。	第1回	5月28日	5月2日	5月9日			
	③④ 2編 物質の構成 1章 原子の構造と原子の周期表	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	原子の構造，電子配置と周期表の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。	第2回	6月25日	5月23日	6月6日			
	⑤⑥⑦⑧ 2編 物質の構成 2章 化学結合	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	イオンとイオン結合，分子と共有結合，金属と金属結合の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。	第3回	7月3日	6月20日	6月27日	7月4日	7月11日	
	定期考査	前期試験 9月の土曜	試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表							
後期	⑨⑩③編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	物質，化学反応式について，問題を見だし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究する。	第4回	10月29日	10月3日	10月10日	10月17日		
	⑪⑫⑬⑭③編 物質の変化 2章 酸と塩基	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	酸・塩基と中和について，問題を見だし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究する。	第5回	11月26日	10月24日	10月31日	11月7日	11月14日	11月28日
	⑮⑯③編 物質の変化 3章 酸化還元反応	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	酸化と還元について，問題を見だし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究する。	第6回	12月4日	12月5日	12月12日	12月19日		
	定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日	試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表							

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が合格ライン以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

#### 観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察。実験などを行い、得られた結果を分析して解釈する。	自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を養おうとしている。また、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

使用教科書：（ 2 東書 生物702 新編 生物基礎 東京書籍 ）

副教材：（ 2 東書 生物702準拠 新編 生物基礎 学習書 NHK出版 ）

教科 理科

の指導目標：

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けようとする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎

の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うことができる。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
選択必修履修科目	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限				スクーリング	備考
					1	2	3	4		
前期	①生物の多様性と共通性 ②細胞の特徴 ③④生物とエネルギー	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。また、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解する。 ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。また、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。	第1回	5月28日	5月9日	5月16日	5月23日	6月6日	
	⑤遺伝情報とDNA ⑥遺伝情報とタンパク質の合成	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・DNAの構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を見いだして理解する。 ・遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解する。	第2回	6月25日	6月3日	6月10日	6月17日		
	⑦体内環境 ⑧神経系による情報伝達	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解する。	第3回	7月3日	7月4日	7月11日	7月18日		
	定期考査	前期試験 9月の土曜 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表								
後期	⑨内分泌系による情報伝達 ⑩血糖濃度の調節	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解する。また、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解する。	第4回	10月29日	10月3日	10月10日	10月17日		
	⑪⑫免疫のしくみ ⑬免疫の応用 ⑭免疫とさまざまな疾患	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解する。	第5回	11月26日	10月24日	10月31日	11月7日	11月14日	11月28日
	⑮⑯生物の多様性と生態系	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解する。また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解する。 ・生態系における生物の種多様性を見いだして理解する。また、生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解する。	第6回	12月4日	12月5日	12月12日	12月19日		
	定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表								

※視聴メディア（NHK高校講座）については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が合格ライン以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

#### 観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察。実験などを行い、得られた結果を分析して解釈する。	自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を養おうとしている。また、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

使用教科書：（ 2 東書 生物701 生物 東京書籍 ）

副教材：（ ）

教科 理科

の指導目標：

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けようとする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物①

の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うことができる。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
「生物基礎」履修後に履修	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限				スクーリング	備考
					1	2	3	4		
前期	①共通性と多様性をつなぐ進化 生命の誕生 ②遺伝的変異	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・細胞の進化と地球環境の変化とを関連付けて理解する。 ・遺伝子の変化に関する資料に基づいて、突然変異と生物の形質の変化との関係を見い出して理解する。	第1回	5月28日	5月2日	5月16日	5月23日		
	③遺伝子の変化と進化のしくみ ④生物の系統と進化	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・進化の仕組みに関する観察、実験などを行い、遺伝子頻度が変化する要因を見いだして理解する。 ・生物の遺伝情報に関する資料に基づいて、生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を見いだして理解する。	第2回	6月25日	5月30日	6月13日	6月20日		
	⑤細胞と物質 ⑥代謝とエネルギー	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・生命現象とタンパク質に関する観察、実験などを行い、タンパク質の機能を生命現象と関連付けて理解する。 ・呼吸・光合成について、エネルギーの流れを理解する。	第3回	7月3日	7月4日	7月11日	7月18日		
	定期考査	前期試験 9月の土曜 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表								
後期	⑦⑧遺伝情報とその発現	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製の仕組みを理解する。 ・遺伝子発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現の仕組みを理解する。	第4回	10月29日	10月3日	10月17日	10月24日		
	⑨⑩発生と遺伝子発現	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだして理解する。 ・発生の過程における文化や遺伝子発現の調節について理解する。	第5回	11月6日	10月31日	11月7日	11月14日		
	⑪⑫遺伝子を扱う技術	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 ・制限酵素、ベクター及び遺伝子の増幅技術を理解する。また実際にどのように用いられるか理解する。	第6回	12月4日	12月5日	12月12日	12月19日		
	定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表								

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が合格ライン以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。□
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

#### 観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察。実験などを行い、得られた結果を分析して解釈する。	自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を養おうとしている。また、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

使用教科書：（ 2 東書 生物701 生物 東京書籍 ）

副教材：（ ）

教科 理科

の指導目標：

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けようとする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物②

の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うことができる。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
「生物基礎」履修後に履修	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限				スクーリング	備考
					1	2	3	4		
前期	①刺激の受容から反応への流れ ②興奮の伝導と伝達	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを、関与する細胞の特性と関連付けて理解する。	第1回	5月28日	5月9日	5月16日	5月23日		
	③刺激の受容と感覚 ④効果器	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・効果器として筋肉の仕組みを理解する。 ・脳について構造と仕組みを理解する。	第2回	6月25日	5月30日	6月13日	6月20日		
	⑤⑥動物の行動	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・動物の行動に関する資料に基づいて、行動を神経系の働きと関連付けて理解する。	第3回	7月3日	6月7日	7月1日	7月8日		
	定期考査	前期試験 9月の土曜	試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表							
後期	⑦⑧植物の環境応答	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・植物の環境応答に関する観察、実験を行い、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見だし理解する。	第4回	10月29日	10月3日	10月17日	10月24日		
	⑨⑩個体群と生物群集	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・個体群や生物群集が維持される仕組みや個体間の関係性を見だし理解する。	第5回	11月6日	10月31日	11月7日	11月14日		
	⑪生態系の物質生産と物質循環 ⑫生態系と人間生活	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 ・実験 等	・生態系において物質生成及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連付けて理解する。 ・人間生活が生態系に及ぼす影響を見だし理解する。	第6回	12月4日	11月28日	12月5日	12月12日		
	定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日	試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表							

※視聴メディア (NHK高校講座) については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が合格ライン以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。□
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

#### 観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察。実験などを行い、得られた結果を分析して解釈する。	自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を養おうとしている。また、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
<p>定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。</p> <p>評定2以上で単位修得が認定される。</p> <p>学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。</p>

使用教科書：（ 2 東書 地基701 地学基礎 東京書籍 ）

副教材：（ 2 東書 地基701準拠 地学基礎 学習書 NHK出版 ）

教科 理科 の指導目標：

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けようとする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 地学基礎 の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことができる。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養うことができる。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
選択必修履修科目	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限				スクーリング	備考
					1	2	3	4		
前期	①②大地とその動き	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・地球の形や大きさに関する観察、実験などを行い、地球の形の特徴と大きさを見いだして理解することができる。 ・地球内部の層構造とその状態を理解することができる。	第1回	5月28日	5月9日	5月16日			
	③④⑤⑥火山活動と地震	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・プレートの分布と運動について理解するとともに、大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けて理解することができる。 ・火山活動や地震に関する資料に基づいて、火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解することができる。	第2回	6月25日	5月23日	5月30日	6月6日	6月13日	6月27日
	⑦地球の熱収支 ⑧大気と海水の運動	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・大気の特徴を理解するとともに、太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量が釣り合っていることを理解することができる。 ・地球規模で熱が輸送されていることを理解することができる。	第3回	7月3日	7月4日	7月11日	7月18日		
	定期考査	前期試験 9月の土曜 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表								
後期	⑨⑩宇宙の構造と進化	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・宇宙の誕生、太陽系の誕生と生命を生み出す条件を備えた地球の特徴を理解することができる。	第4回	10月29日	10月3日	10月10日	10月17日		
	⑪地層と化石の観察 ⑫⑬⑭古生物の変遷と地球環境	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・地層や化石に関する観察などを行い、地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを理解するとともに、地球環境の変化に関する資料に基づいて、大気の変化と生命活動の相互の関わりを見いだして理解することができる。	第5回	11月6日	10月24日	10月31日	11月7日	11月14日	11月28日
	⑮日本の自然の恵みと防災 ⑯自然環境の変動	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 ・実験等	・地球規模の自然環境に関する資料に基づいて、地球環境の変化を見いだしてその仕組みを理解するとともに、それらの現象と人間生活との関わりについて認識できる。 ・日本の自然環境を理解し、それによる恩恵や災害について認識できる。	第6回	12月4日	12月5日	12月12日	12月19日		
	定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表								

※視聴メディア（NHK高校講座）については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が合格ライン以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

#### 観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察。実験などを行い、得られた結果を分析して解釈する。	自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を養おうとしている。また、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。